

若者たちの足が、再び新潟・古町へ向かう。 ——古着カルチャーが生む新たな賑わい 「モノ」ではなく「体験」を求め、全国から集まる街

新潟県は、日本屈指の繊維産地として知られ、ニット製男子・女子セーターの出荷額は全国 1 位を誇るなど、服づくりの文化が深く根付いています。こうした背景を持つ新潟で、2026 年 7 月 17 日に「NAMICS presents TGC NIIGATA 2026 by TOKYO GIRLS COLLECTION」が開催され、学生が伝統着物をリメイクしたプロジェクトが披露されるなど、地域の伝統と若者の創造性が交わる場面が見られました。

そして今、新潟市内で若者たちの注目を集める街があります。昭和期から新潟の中心街として栄え、飲食・商店・文化が集積し、親しまれてきた古町エリアです。一時は郊外化や生活動線の変化により若者離れが進み、かつての賑わいが影を潜めていました。しかし近年、古町には再び若者の姿が増え、街の空気も少しずつ変わり始めています。

本ニュースレターでは、古町で育まれる古着カルチャーに焦点を当て、ストリートとしての古町の現在地を紹介します。



©新潟県ポータルサイト「新潟のつかいかた」 howtoniigata.jp

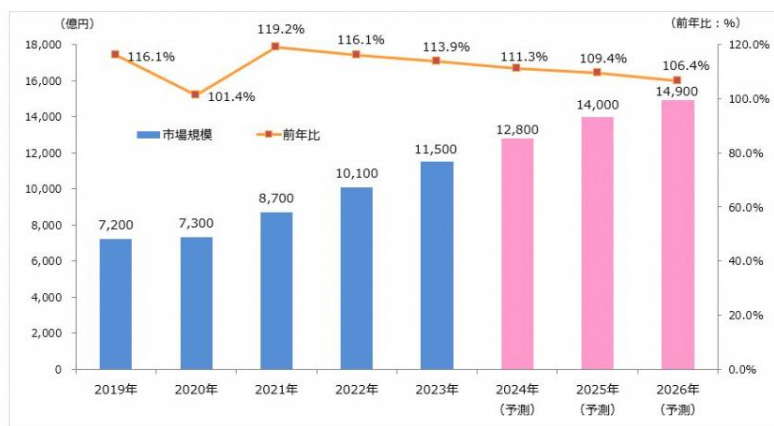
■広がるファッションリユース市場 新潟・古町でも“古着店めぐり”の動きが生まれる

古着を含むファッションリユース市場への関心が高まっています。矢野経済研究所の推計によると、2023 年の国内ファッションリユース市場は小売金額ベースで 1 兆 1,500 億円、前年比 113.9%となり、フリマアプリの普及や古着ブーム、環境意識の高まりなどを背景に拡大しています。

古着は、いまや“安く買う服”にとどまらず、人と被らない一点物としての魅力や、年代・素材・風合いに宿る背景を楽しむファッションとして、若者の間でも存在感を高めています。

こうした流れの中、新潟市・古町は全国から人が集まる古着の街として注目されており、古着店を巡って自分らしい一着を探す若者の姿が多く見られます。

ファッションリユース（中古）市場規模推移・予測



注1. 小売金額ベース、CtoC取引における仲介事業者等の販売手数料は含まない。

注2. 2024年以降は予測値

注3. アパレル衣類（メンズ、レディス、ベビー・子供服）、アパレル雑貨類（バッグ、革小物、靴、ネクタイなど）、宝飾・貴金属類、時計、きもの・呉服、その他（アウトドア類、インポートブランド類）などのアイテムを対象として算出した。一般家電製品やスマートフォン、古銭、楽器類などは含まない。

矢野経済研究所調べ

■なぜ古町に古着好きが集まるのか？支え合うことで生まれる信頼

古町エリアでも門前町となる上古町商店街では、この 5 年で古着店やヴィンテージショップが増え、古着好きが集まる場所として存在感を高めています。新潟市上古町商店街振興組合の副理事長・金澤李花子さんは、「若い人が店を始めやすい家賃の安さもありますが、古着店が並ぶことで“古町へ行く”という行動が生まれている」と話します。

火付け役となったのは、10 年前にオープンした「ONE DAY STORE NIIGATA」。金澤さんは「手頃でセンスのいい海外古着が高校生から 30 代に広がった」と振り返ります。**近くに専門学校が複数あり、学生が多いことも、街の若返りにつながっている**そう。

さらに、「**チェーン店が少なく、店主の顔が見えるのも魅力**」と語ります。加えて、「喫茶店が別の喫茶店を、古着屋が別の古着屋を紹介するなど、**同業種同士が支え合って地域の魅力や信頼をつくっている**」と、古町ならではの個性を強調します。



■古着は“人に会いに行く”体験——古町が若者を魅了する理由

古町で広がる“古着店めぐり”の魅力は、服を買うだけではありません。店主との会話を楽しみながら自分に合う一点物と出会う——その体験自体が、若者を惹きつけています。

新潟市中央区古町の古着店「THIS MAN VINTAGE CLOTHING」のオーナー・大野さんは、古着の魅力を「**一点物なので、人と被らない。宝探しみたいな感覚**」と表現します。県外から訪れる人については、「シンプルに言えば、“**人に会いに来る**”です。

白いシャツは東京にも新潟にもあるかもしれない。でも古町で出会う人は古町にしかない。**“この人から買いたい”**という方が多いんです」と話します。



©新潟県ポータルサイト「新潟のつかいかた」 howtoniigata.jp

さらに、**古着に詰まったカルチャーや歴史についても、「ある意味“小説を読む”ような体験にも近い」と語ります。古着をきっかけに、知識や価値観、人とのつながりが生まれている**ことがうかがえます。

■繊維の伝統と産業が息づく新潟

新潟県は、日本屈指の繊維産地として発展してきました。十日町や小千谷に代表される着物・織物の産地をはじめ、県内各地で繊維産業が根付き、ニット製男子・女子セーターの出荷額は全国 1 位を誇ります。

県内には服づくりを学べるファッション系の学校もあり、産地の技術を次世代へつなぐ環境が整っています。こうした基盤が若い世代の創作活動を支え、地域のものづくり文化を育ててきました。産地としての歴史と教育の蓄積、そして、地域の人たちの信頼と支え合いが新潟のファッションシーンやカルチャーの厚みを形づくっています。

■ご取材について

本ニュースレターで紹介した新潟・古町の古着カルチャーについて、個別取材のご相談が可能です。取材をご希望の場合は、新潟県 PR 事務局までお問い合わせください。

※取材・撮影の可否は、店舗・関係者との調整のうえ個別にご相談となります。

<本件に関するお問い合わせ>

新潟県 PR 事務局（株式会社ブラップジャパン内） 河野・山田

MAIL : niigata-pr@prap.co.jp

TEL : 070-2478-7099（河野）080-9815-9168（山田）